

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	<p>臺丸谷美幸【論文博士】 (ジェンダー学際研究専攻 平成26年3月単位修得退学)</p>	<p>当該論文は、アメリカ合衆国在住の日系二世が朝鮮戦争に従軍した経験を分析し、そこからシティズンシップ獲得のあり方を批判的に考察するものである。冷戦初期という時代を描く歴史研究でもある。</p> <p>この論文の大きな意義は、分析の視点がジェンダーとエスニシティから提供されていることである。米国のシティズンシップについては政治思想や社会政策から一般に研究されてきたが、日系二世が従軍することでシティズンシップを獲得してきたものの、それが十全な形ではなかった経緯が歴史的手法と社会学的手法を組み合わせることで詳細に明らかにされた。それだけでなく、その過程には大きなジェンダー・ギャップが含まれてきたことも呈示された。</p> <p>また第二に、以上のことによって、本論文はこれまでほとんど研究の進んでいなかった分野に光を当てることができた。日系人の従軍経験については、エスニシティ隔離の観点から主にこれまで第二次世界大戦への従軍がもたらした研究されてきており、また米国にとって明確な戦勝のなかった朝鮮戦争については社会的に不可視化される傾向にあった。これを冷戦初期の米国社会の再編として位置づけ直すことで、冷戦期社会の重要な歴史構造が抽出されたと言えよう。彼らは、「冷戦リベラリズム」の下で「冷戦の兵士」として社会的に定位されたのである。映画表象の分析をこうした考察の前に行うことで、特定の人的グループだけの問題ではなく、社会全体のエスニシティとジェンダーにおける再編という大きな意味が確認されている。</p> <p>第三に、ロバート・M・ワダとキヨ・サトウという2人について長時間のインタビューを含む徹底した調査を行い、貴重なデータを獲得したことは高く評価できる。そのほかの個人や諸団体への調査も綿密に行われた。資料操作の手順は手堅いし、歴史への解釈を与える視点の立て方は卓越している。</p> <p>単位取得退学後、3年に満たないため、課程博士に準じる論文博士の手続きを取り、審査を進めた。審査委員会は2014年6月24日、7月30日に行われ、8月26日の論文発表会の後、同日に最終審査会が開催された。最終審査会では、委員全員が一致して本論文が博士号にふさわしい水準に達していると判断した。よって、お茶の水女子大学博士(人文科学)、Ph.D. in Gender Studies/American Historyの学位授与が適当であると判断した。</p>
論文題目	<p>冷戦初期における日系アメリカ人の朝鮮戦争従軍経験 —ジェンダーとエスニシティの視座から—</p>	
審査委員	(主査) 小林誠 教授	
	戸谷陽子 教授	
	申琪榮 准教授	
	小玉亮子 教授	
	<p>小林富久子 城西国際大学大学院人文科学研究科客員教授</p>	
インターネット 公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否 (否)</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 40px;">①. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 40px;">②. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 40px;">③. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	